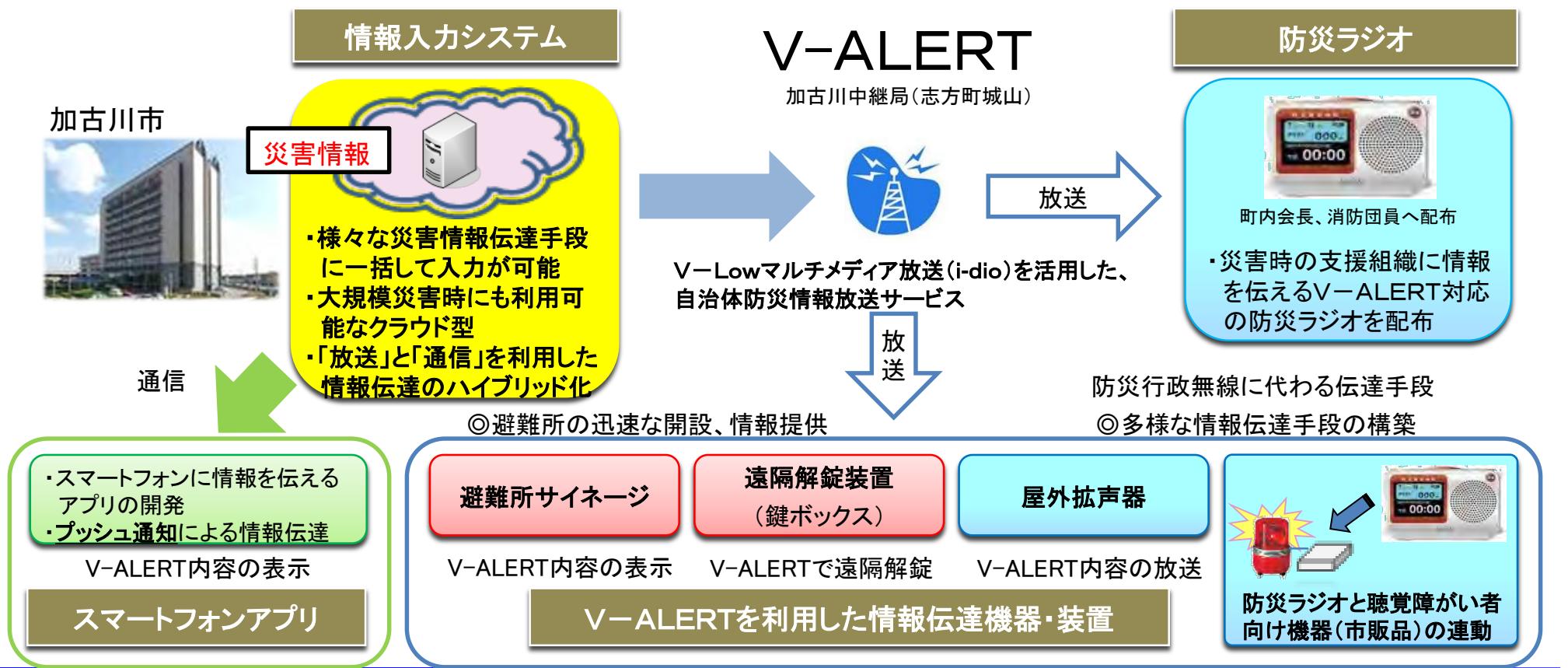


各市、県の取組内容

【加古川市】 災害情報伝達システムの構築について①

○住民等への情報伝達の体制や方法の整備（発表対象区域や避難の切迫性等が、住民に伝わる伝達手法）

- ・ 総務省と協力し「災害情報伝達等の高度化事業」を実施した。



取組を実施した効果、成果

- ・ 情報入力の一元化により、迅速な情報提供が可能（情報入力システム）
- ・ 多様な伝達手段により、迅速な情報の伝達が可能（防災ラジオ、スマートフォンアプリ、屋外拡声器）
- ・ 津波及び土砂災害時の迅速な避難所の解錠が可能（遠隔解錠装置）

・高度化事業の成果を踏まえ、平成30年度の事業計画を推進

アプリの運用開始 (7月配信開始)

- ・大字単位のプッシュ通知
- ・行政アプリとの連携
- ・離れて暮らす家族の位置情報の確認

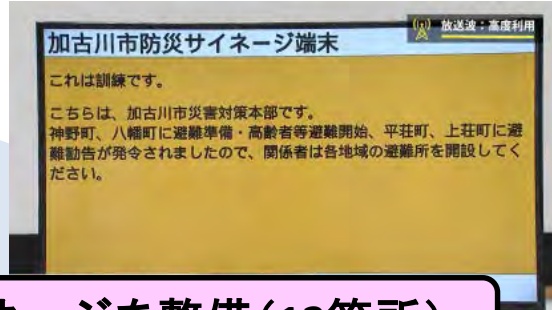


屋外拡声器を追加整備(14箇所)



- ・津波浸水想定区域、L2浸水による家屋倒壊等氾濫想定区域をカバー

- ・自主避難所となる公民館
- ・避難者に災害情報を伝達



避難所サイネージを整備(12箇所)



- ・津波避難ビル、土砂災害時の避難所となる小中学校
- ・迅速な避難所開設

遠隔解錠装置を整備(15箇所)

- ・多様な情報伝達手段の構築
- ・地域を限定した的確な情報伝達
- ・迅速な避難所開設

他の防災施策との組み合わせによる
総合的な減災対策

○防災マップ・地区別避難計画の作成支援

迅速かつ的確な避難を促進するための防災出前講座の実施

■地域の実情に応じた避難行動の検討

- ・災害種別毎に、どの場所にどのような脅威があるのか。
- ・想定される脅威に対して、どのような避難行動をとるのか。
- ・どのタイミングで避難行動をとることが望ましいのか。

■自分がおかれている状況に応じて避難行動を選択

- ・「指定緊急避難場所」への立退き避難【水平避難】
- ・「近隣の安全な場所」への立退き避難【水平・垂直避難】
- ・「屋内安全確保」【垂直避難】

取組を実施した効果、成果

- ・避難のタイミングや安全な経路を知ることができた。
- ・防災マップを自分達で作成したことにより、防災に対する意識が高まるとともに、地域コミュニティの活性化が図られた。
- ・高齢者等の避難支援に取り組む機運が高まった。



会議の風景



まち歩き風景



防災マップ

○平成26年度に市独自のタイムラインを導入 「市民に求める行動をわかりやすく伝えたい」

- 市民向けタイムラインの作成
広報たかさご特集号による啓発
“そのとき、あなたはどのような行動を？”
- 市民に求める行動を周知
“いつ、誰が、どのような行動を？”
- ・ 気象情報を活用した事前の避難準備
- ・ 避難行動における安全の確保
- ・ 切迫した状況では、
生命を守る最低限の避難行動を選択



広報による情報発信

取組を実施した効果、成果

- ・ 警報級の現象を予想した時間帯を色分けした防災気象情報などを周知することにより、避難の準備や心構えについて啓発することができた。
- ・ 水害は、降雨から危険な状況になるまで猶予時間（リードタイム）がある災害であることから、事前に避難することの重要性を周知することができた。

○避難誘導體制について 災害弱者を共助で支援する体制づくり

避難行動要支援者1,996名(内名簿提供同意者数1,319名)

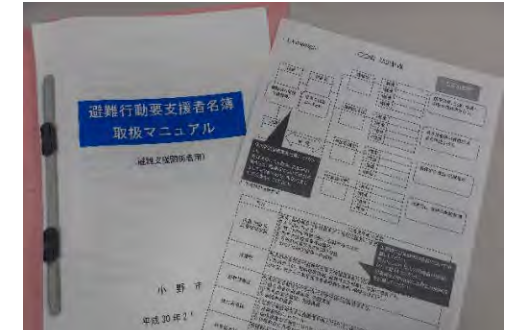
- ・水害発生時の災害弱者(避難行動要支援者)に地域への名簿情報提供の意思確認を行うことを目標に安全安心パトロール隊と連携し、訪問等の方法で1,980人(全体の99.2%)の意思確認を行った。
- ・避難行動要支援者名簿取扱マニュアルを作成し、全自治会(90自治会)に配布を行った。



安全安心パトロール隊との連携



訪問による名簿提供の意思確認



名簿取扱マニュアルと自治会防災計画

取組を実施した効果、成果

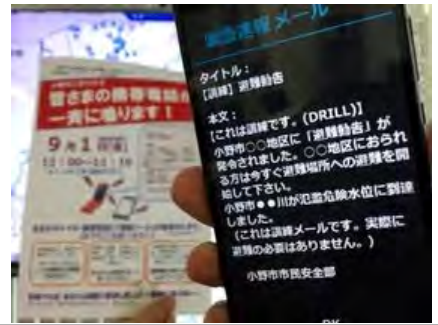
- ・訪問等で制度への理解が促進し、地域への名簿情報提供同意者数も増加した。(H29年度より同意者数460名増加 前年比約1.5倍)
- ・安全安心パトロール隊(15名)については、隊員も避難行動要支援者の情報が共有でき、災害時に避難行動要支援者への迅速な避難情報の伝達を行う体制づくりができた。
- ・避難行動要支援者制度をもとにした共助による支援が受けられるような「互近助」の関係構築促進ができた。

○住民等への情報伝達の体制や方法について 小野市全域防災訓練(緊急速報メール配信訓練)

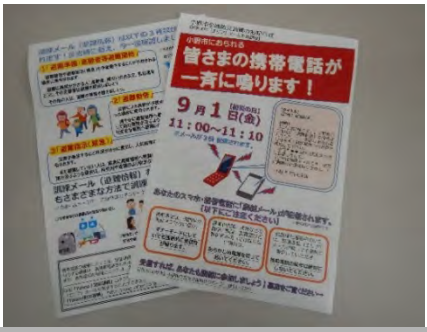


避難準備・高齢者避難開始、避難勧告、避難指示の3回の緊急速報メールを訓練で発信

・水害等の災害発生時に安全安心メール(ひょうご防災ネット)や市・消防署広報車・安全安心パトロール隊の伝達に加え、市全域で緊急速報メール配信訓練を行い、緊急速報メールの周知、受信後の避難行動訓練を行った。



緊急速報メールの携帯画面



小野市全域防災訓練のチラシ



訓練時の(株)ダスキン(神戸新聞)

取組を実施した効果、成果

- ・北播磨圏域初の緊急速報メール訓練により、各種メディアにも取り上げられ、災害時の情報伝達手段として住民への周知ができた。
- ・H29年10月の台風21号では緊急速報メールを運用し、避難勧告を加古川右岸の12の自治会に迅速に発令できた。
- ・緊急速報メールをきっかけに(株)ダスキン等の企業や自治会が災害時の対応確認を行い、防災・減災意識の向上が図れた。

○水防体制

関係者による重要水防箇所等の共同点検を実施

- ・市民の多様な意見や提案を市政に反映させ、協働のまちづくりを進める機会づくりとして、平成29年度に市長まちづくりタウンミーティングを開催した(期間 平成29年6月19日から7月24日までの計11回)。
- ・小学校区を基本に市域を11の区域に区分し、それぞれの区域を地域の役員と市長が歩いてめぐりながら、地域の現状を把握し、さまざまな課題について意見を交換した。
- ・滝野小学校区(川東地区)においては、鬪龍灘上流の加古川中州における雑木及び砂利の撤去について現地を視察し、視察後には加古川の浸水被害に対する協議などを、地区役員と市長、担当課の職員が行った。



視察の様子



加古川現況



懇親会の様子

取組を実施した効果、成果

ともに現地を確認することで、加古川の氾濫による浸水被害対策について改めて強い意識を持つことができ、地区の方々と直接意見交換することで、今後の取り組みについて具体的な協議を行うことができた。

○想定される浸水リスクの周知 地域住民及び学校等への水災害教育の実施

- ・災害時に避難所開設を迅速に行うための訓練と、発災時の避難における市民の意識啓発を目的として、指定避難所である滝野総合公園体育館スカイピアにおいて、一泊二日で避難所生活を体験する訓練を、市内の5組12人の親子及び市職員21人のほか、消防団や加東警察署などの参加により平成29年7月29日から30日にかけて開催した。
- ・避難者名簿の作成から、市内の王子コンテナー兵庫工場と災害協定を締結しているダンボールベッドの組み立て、災害時に約30分で100人分のご飯を炊くことのできる市所有の「レスキューキッチン」を使用した炊き出しなどを一日目に行い、ダンボールベッドを使用して一泊した後、二日目の起床時には保健師の指導によりエコノミー症候群の予防体操を行った後、消防団の指導による消火訓練などを行った。



避難所名簿の作成



ダンボールベッドの組み立て



レスキューキッチンによる炊き出し

取組を実施した効果、成果

職員は、避難所開設の一連の流れを体験することで具体的な行動がイメージでき、参加者は、避難所生活の大変さを身をもって体験することで、災害時避難における備えの大切さを感じることができた。

○避難場所、避難経路

広域避難も含めた、避難場所及び避難経路の検討

- ・近年、全国各地で多発している集中豪雨などによる大災害に備え、発災後、同時に甚大な被害を受ける可能性が低く、直接迅速な人的応援が可能な自治体である京都府宇治田原町と、お互いがお茶の産地という縁もあり、平成29年7月6日に災害時応援協定を締結した。
- ・被災市町へ、救援に必要な資機材及び物資などの提供、職員の派遣、被災者の一時受入れや受入れ施設の提供、ボランティアの斡旋などの応援を行うことで互いに災害に備えている。
- ・また、平成18年4月1日にも「義士親善友好都市間における災害応急対策活動の相互応援に関する協定書」を締結しており、加東市を含む全国23市区が災害時には相互応援を行っている。



協定書と互いに生産したお茶を手にした加東市安田市長と宇治田原町西谷町長



協定書の調印

取組を実施した効果、成果

災害時相互応援協定の締結により、広域避難時の避難場所や人的、物的支援の確保を可能にした。また、相手方の防災訓練に参加することで、実践的な訓練を行うことができた。

○想定される浸水リスクの周知 地域住民及び学校等への水災害教育の実施

- ・平成30年2月2日に、加東市立滝野東小学校の5年生(80人)を対象に防災学習(風水害・地震)を行った。
- ・過去に市内で発生した、加古川の氾濫による浸水や土砂災害被害について、当時の写真により平常時と洪水時の比較や、災害への備え(避難方法、非常持ち出し品等)について説明を行ったほか、山崎断層と南海トラフ地震の震度と発生リスクについても説明を行った。



防災学習の様子

取組を実施した効果、成果

加東市内や滝野東小学校の周辺で過去に発生した災害など、身近な事例を示すことで、児童により危機感を持ってもらうことができ、また平常時と洪水時の比較など写真を活用することでより具体的にイメージしてもらうことができた。

○避難に関する啓発活動について
防災情報の活用研修や総合治水に関する出前講座を実施



■H29年7月 防災情報活用研修

自主防災リーダー等を対象

- ・災害時に自主防災組織が取り組むべき活動内容についての講義
- ・モバイル端末を活用したCGハザードマップ等の防災情報の取得方法や具体的な活用方法等について体験型の講座の実施

■H29年5月 ジュニア防災スクール【総合治水出前講座】 (加古川市立平岡北小学校)

- ・防災学習でジオラマ模型による「ためる」、「浸透する」対策の役割や効果を体感！

取組を実施した効果、成果

防災情報や防災学習によって自ら体験・体感することで総合治水に関する知識を深めることができた。



防災情報活用研修会(北播磨)



ジュニア防災スクール(東播磨)

○想定される浸水リスクの周知

浸水想定区域や危険箇所をCGハザードマップにて公表・周知

・兵庫県における5つの自然災害(洪水・土砂災害・津波・高潮・ため池災害)の浸水想定区域や危険箇所、河川・港湾のライブカメラ画像等を公表・周知した。

兵庫県CGハザードマップ

CGハザードマップ

検索

平常時から災害に備えよう

1 5つの自然災害(洪水・土砂災害・津波・高潮・ため池災害)による浸水想定区域や危険箇所がわかります。

- ため池災害** ハザードマップ
● 浸水想定区域
- 土砂災害** ハザードマップ
● 土砂災害警戒区域等
● 土石流
● 地すべり
● 急傾斜
● 山腹崩壊
● 崩壊土砂流出
● 雪崩
- 津波** ハザードマップ
● 浸水想定区域
- 高潮** ハザードマップ
● 浸水想定区域
- 洪水** ハザードマップ
● 浸水想定区域
● 過去の洪水実績

兵庫県CGハザードマップ

災害時に利用しよう

2 災害時に役立つ土砂災害の危険度や、河川・港湾のライブカメラ画像を確認できます。

- 河川の水位情報**
現在の河川水位の観測データが確認できます
- 観測情報**
 - 気象情報
 - 兵庫県の気象情報
 - 気象庁ホームページ
 - リアルタイム情報
 - 川の情報: 県内各地の雨量、河川水位が見られます
 - 道の情報: 県内の規制状況が見られます
 - 山の情報: 県内各地の土砂災害危険度が見られます
 - 海の情報: 県内各地の潮位が見られます
 - ライブカメラの情報
 - 河川カメラ・港内カメラ
- 地域別土砂災害危険度**
現在~2時間先の土砂災害危険度が確認できます
- 河川カメラ**
港内カメラ

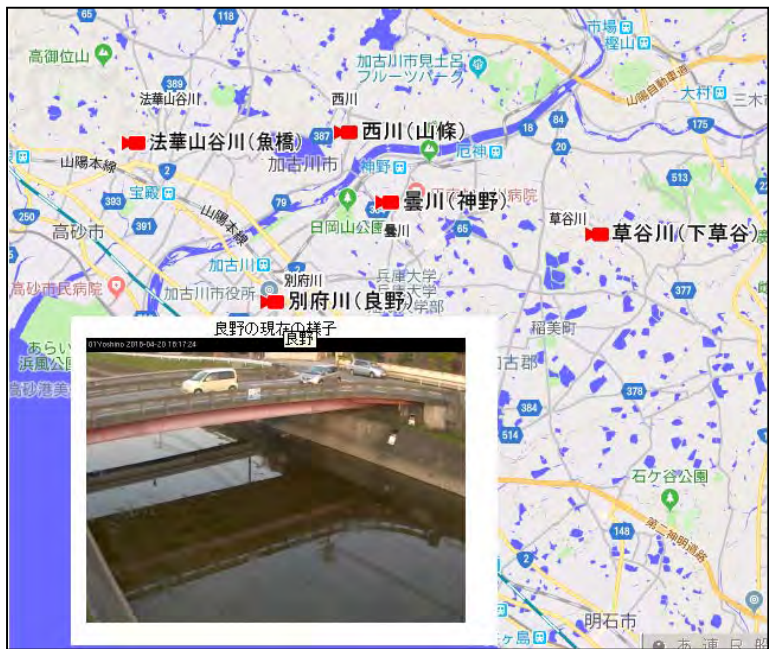
取組を実施した効果、成果

平常時の学習や啓発にも利用することで、防災意識を向上させることができた。

○河川水位等に係る情報の提供
 水位観測設備やCCTV(カメラ)等について設置の検討

・東播磨県民局、北播磨県民局において県管理河川に河川監視カメラを設置し、常時、川の状況等の情報を提供している。

【東播磨】



【北播磨】



※HP上のカメラをクリック

モニタ場所 晩雲 (加東市揖鹿谷地内)

2019年04月23日 18:28:34

水位表

水位	水位 (m)
5 分間隔	1 0 分間隔
3 0 分間隔	1 時間間隔
4/20 18:00	0.02
4/20 17:00	0.01
4/20 16:00	0.02
4/20 15:00	0.02
4/20 14:00	0.01
4/20 13:00	0.02
4/20 12:00	0.02
4/20 11:00	0.02
4/20 10:00	0.02
4/20 09:00	0.02
4/20 08:00	0.02
4/20 07:00	0.02

凡例
 ▲ 水位上昇中
 ▼ 水位下降中
 → 水位変化なし

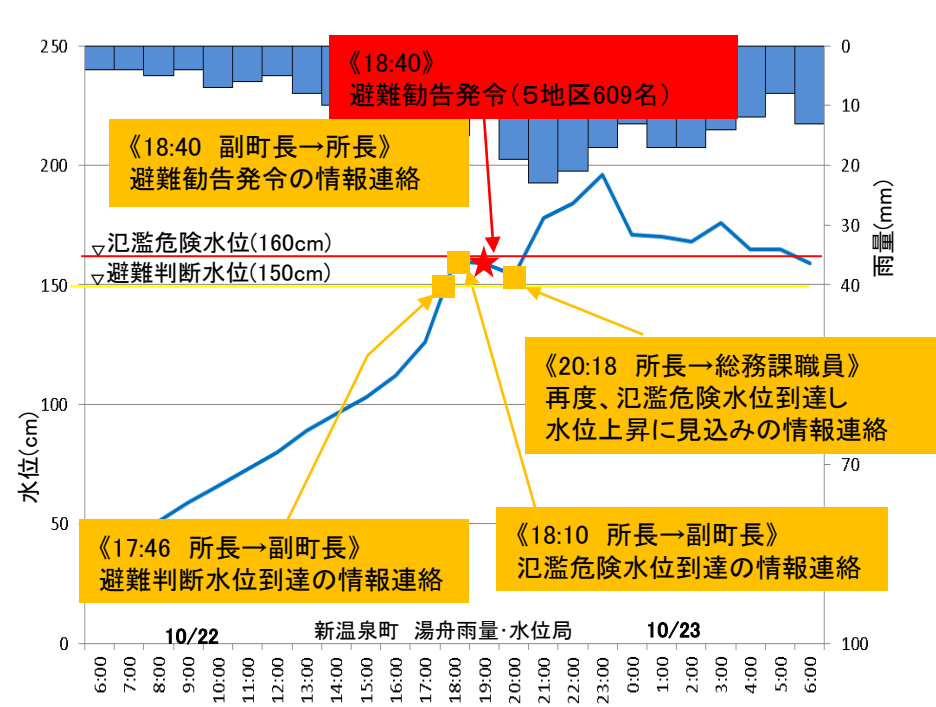
【ポイント】
 NHKのdボタンでも見られます

取組を実施した効果、成果
 川の映像に加え、水位の情報も分かることから、水防活動や避難行動にも利用された。

○避難勧告等の発令について ホットラインの取組みや円滑な避難勧告の発令支援の実施

- ・兵庫県では、平成29年出水期(6月)までに全40市町とホットラインを構築した。
- ・平成29年度は計9市町と情報交換を含むホットラインのべ38回を実施し、7回の避難勧告を支援した。

平成29年10月22日台風第21号時のホットライン実施状況 (新温泉土木⇔新温泉町)



- 気象状況
台風第21号の接近に伴い、10月21日から降り始めた雨は、総雨量300mm超を観測。
- ホットライン実施状況
・台風第21号時には、この他5水位局の地域でホットラインを実施。
・県からの水位情報だけでなく、市町の体制状況の連絡もあり、情報交換の体制が確立された。

加東土木事務所 ホットライン実績	
◎8月18日	土木事務所長⇔多可町長
◎9月17日	土木事務所長⇔加西市長 ⇔多可町長 ⇔西脇市長
◎10月22日	土木事務所長⇔三木市長 ⇔西脇市長
◎3月5日	土木事務所長⇔三木副市长

取組を実施した効果、成果
 急激な水位上昇が想定される中小河川において、限られた時間の中で水位等の情報を直接提供し、的確な避難勧告等の判断を支援することができた。